

# 防災教育に関する指導力向上プロジェクト始動

教員・保育士を目指す学生が参加



本学では今年度から防災に関するプロジェクトを始めました。今回企画したのは児童学科の帖佐尚人准教授(教育学)で、教員や保育士を目指す学生を対象に、全5回のプログラムを実施しました。

1回目は避難所運営を模擬的に体験するゲーム「HUG」を実施。避難所で次々に起こる問題に対して、何を優先し、どのように対応するのかなどをグループで話し合いながら進めました。

2回目は避難所の居住スペースの設営計画を立案し、3回目は4班に分かれて、実際に避難所の居住スペースを作りました。テントや段ボールベッドを組み立て、懐中電灯や携帯ラジオのほかに、夏仕様の班では自家発電の扇風機や汗拭きシート、冬仕様の班では毛布や保温シートなどを準備し、各班ごとに快適に過ごすための工夫を披露しました。また、避難所のトイレが使えなくなる事例が多いことから、簡易トイレも制作しました。

4回目は災害時に役立つポリ袋を利用した「バッククッキング」に挑戦。帖佐准教授から「食品用ポリ袋に食材を入れ、できるだけ空気を抜き、袋の上部で結ぶように」と調理のコツを聞いた後、無洗米や味付けした生の肉、野菜などをポリ袋に入れ、湯せんのみで調理しました。



肉じゃがや親子丼、サツマイモと豆乳のポタージュなどを作り、ライフラインが止まっても、「バッククッキング」で普段と変わらない温かい食事ができることを体験しました。



5回目は学校防災について、鹿児島市地域福祉課の山内博之氏による講話。近年の自然災害に触れ、「避難所では子どもの声に耳を傾け、ストレスを軽減できるように遊ぶ場所を確保することが大切。災害はいつ起こるか分からない。日ごろから訓練を実施し、避難することを躊躇せず、命を守る行動をとってほしい」と話しました。

担当した帖佐准教授は、「将来、先生になった際に勤務する学校が避難所になることもあるため、実践的に学ぶ機会は大切。今回の活動を通して、防災についての当事者意識を持ってもらうことを期待している」と話しました。

今回のプロジェクトは、2020年12月に東日本大震災で幼稚園児の娘を亡くした母親らとビデオ電話を通じて実施した防災講話がきっかけとなり、教員や保育士を志す学生の防災教育の指導力向上を目的に実施しました。





## 塩田知事と下鶴市長が講義

### 学長特別講義「地域から世界へ」



塩田 康一 鹿児島県知事

新型コロナウイルス感染症対策、農林水産業や観光関連産業などの基幹産業の「稼ぐ力」の向上などについて、現状や課題、県の取組を紹介。コロナ禍の影響により消費低迷が長期化しているため、感染状況を見極めながら、消費と需要を喚起するための割引クーポンの発行等の経済対策、輸出の拡大を図る取組、with コロナの新たな旅行形態への対応などについて説明しました。さらに「価値観が変化している。世界情勢にも目を向け、時代の変化を見通して鹿児島県の未来を切り開いてほしい」と学生にエールを送りました。

2021 年度の大久保幸夫学長の特別講義「地域から世界へ」(全 15 回)では、第 7 回に塩田康一知事がオンラインで、第 12 回には下鶴隆央市長が対面形式で講義を行い、約 200 名の学生が受講しました。今回は 2 講座の概要を紹介します。



下鶴 隆央 鹿児島市長

少子高齢化の進行、コロナ禍や自然災害等のリスクの高まりなど時代の変化を捉え、的確に対応しながら新しい鹿児島市を創造しなければならない現状に触れ、新型コロナウイルスの徹底した感染防止対策と経済対策との両立を図ることを強調。飲食店利用に対してのポイント付与の実施や、観光振興のための体験型クーポンの発行などの対策を行うことを紹介しました。おわりに「県外や国外に目を向け、鹿児島を俯瞰してみる目を養い、OB 訪問などで様々な立場の社会人の話を聞くなど、学生だからこそできる経験を積んでほしい」とメッセージを送りました。

## コットンから SDGs



8月下旬の綿花



本学では今年度、綿花（コットン）栽培をとおして、SDGs やエシカル消費などについて考える「IUK コットンプロジェクト」を始めました。6 月初旬から学生と教職員の有志と一緒に畑をつくり、徐々に苗の植え替え作業を行いました。6 月 30 日にすべての植え替えが終わり、コットンファームが完成しました。今後はコットンにまつわる映画の上映会や講演会を企画したり、収穫したコットンを使ったリース作りや綿繰り、糸紡ぎのワークショップを開催したりし、SDGs などについて学びを深めていきます。

参加した学生の目的は「SDGs に興味があるが、実際に何ができるのか」「小学校の先生を目指していて綿花栽培に興味がある」など様々。このプロジェクトを担当する経済学科の松本俊哉准教授は、「コットンはビジネス、経済社会史、国際理解、地域活動など幅広い分野の学習に素材を提供できる可能性があり、SDGs について学ぶうえでも最適なツール。学部横断的に学べるのも魅力で、楽しみながら活動していきたい」と話しています。

興味のある方は、本学産学官地域連携センター（図書館 4 階）へお問い合わせください。



9月上旬に収穫した白綿